愛知県ハンガリー友好協会会報　2022 年秋号

2022 年度通常総会報告

　2022 年度通常総会は、新型コロナウィルス感染状況を鑑み、昨年度に続き、書面決議とさせていただきました。会員のみなさまには評決書をご返送いただき、まことにありがとうございました。

　全ての議案が可決されたことをここにご報告いたします。

イベント報告

＜小牧市民まつり参加＞

志村美佐子

　コロナ感染症の影響で過去 2 年開催できなかった小牧市民まつり、今年は 3 年ぶりに 10 月 15 日（土）と 16 日（日）“ふれあいの輪を広げよう”をテーマに開催されました。小牧山会場の「夢・チャレンジげんき村」は子供たちがいろいろな体験することができるエリアです。愛知県ハンガリー友好協会も沢山の子供たちにハンガリーの文化を楽しんでいただきたく参加させていただきました。

ハンガリーの物産販売コーナーでは、色とりどりのビーズのネックレス、カラフルにペインティングされたお人形のえんぴつとコマなどを販売いたしました。

子どもの遊びコーナーは、絵本「ラチとらいおん」のらいおんと耳がチェック柄のうさぎの指人形作り、マレーク・ベロニカさんの絵本「ブルンミとアンニパンニ」「キップコップとティップトップ」「サンタクロースとぎんのくま」のぬり絵、カロチャ刺繍とマチョー刺繍の図案のぬり絵、ハンガリー発祥のルービックキューブ 2×2 と 3×3 などを楽しみました。

毎回手伝ってくださっているスタッフと一緒に会員の佐藤眞奈美さんが 2 日間ともお手伝いしてくださり、耳がチェック柄のうさぎの指人形やぬり絵の図案も準備してくださって、子供たちがとても喜びました。

15 日には武豊からジュラさんが、北名古屋からアンドラーシュさんが来てくださり、ジュラさんのアコーディオンの演奏も楽しみました。

16 日にはハンガリー語クラスの恩田里美さんとご主人が半田から、宮永早苗さんが岡崎から来てくださり、来場の皆さんにハンガリーのことをとても熱く紹介してくださいました。

小さなお子さんからお父さんお母さんも楽しいでいただけたようで、スタッフのみんなも「また来年もね」と言って、2 日間のイベントを楽しみました。

ハンガリー国立歌劇場公演

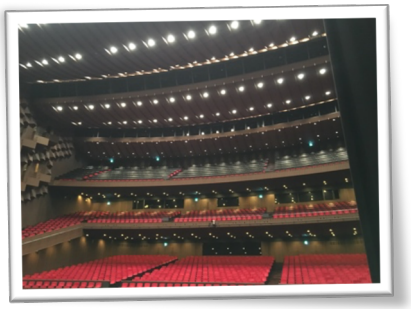
大塚　奈美

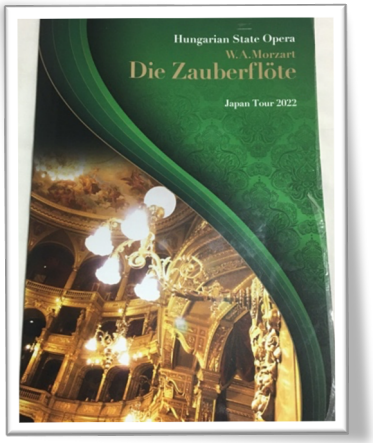
ハンガリー国立歌劇場が 5 年ぶりに来日し、コンサート・ドアーズの企画で、2022 年 10 月 28 日から 11 月 13 日にかけて日本各地の 11 か所で計 12 回の公演を行いました。名古屋では 10 月 29 日に愛知県芸術劇場の大ホールで公演がありました。当協会の会員・役員も何名か来場し、素晴らしい生の舞台を満喫しました。同歌劇場の日本公演は 20 年以上前に始まり、以来、糸見黎（コーシャ　バーリン・黎）さんと森本覚さんが通訳として同行されていますが、今回の名古屋公演の舞台裏では、当協会の青山友香理事も楽屋周りの通訳として参加し、公演の円滑な進行を支えました。また、筆者は翌日 10 月 30 日に大阪のフェスティバルホールで行われた公演で照明の通訳を担当しました。

今回の演目は、モーツァルトの『魔笛』。シネタール・ミクローシュの 2014 年の演出によるもので、現代のニュース場面で始まり、主人公の青年が物語の世界へと入っていきます。基本の舞台装置を土台に、コルティナと呼ばれる中幕とコンピューターを用いた映像を活用して行われる場面展開が特徴的でした。劇場ごとに舞台の大きさや設備が異なることから、それぞれの劇場に合わせて装置の配置と映像の位置の微調整を行う必要があります。特に今回の演出では映像が大きな役割を担っていましたが、調整作業は簡単ではなく、限られた時間で最高の舞台を実現するための真剣な努力を間近で感じることができました。

物語の内容は、大蛇に追われて失神した王子タミーノが夜の女王の 3 人の侍女に助けられ、「悪漢」ザラストロにさらわれた女王の娘パミーナを助けるために、魔笛を授けられ、鳥刺しのパパゲーノを伴って旅立つというものです。「悪漢」とされたザラストロは、実は徳の高い高僧で、パミーナを連れ去ったのは、夜の女王の影響下から守るためだったことが判明し、与えられた試練を乗り越えてタミーノとパミーナは結ばれ、現代に戻った場面で終わります。

人間の弱さと強さや理性と欲望、悲しみと喜びなどの様々な要素を、ときにユーモアを交えながら高い歌唱力で体現し、コヴァーチ・ヤーノシュのダイナミックで表情豊かな指揮によるオーケストラ演奏が重厚さを与えた素晴らしい舞台でした。名古屋でも大阪でもほぼ満席の客席は大きな拍手で包まれ、起立して出演者を讃える観客の姿がそれを実証していました。新型コロナウィルスの流行により、対面での交流や国境を越えた行き来が制限される日々が続きましたが、それを乗り越えて 5 年ぶりに実現した本公演は、生の舞台の存在意義について改めて体感する感慨深いものとなりました。





Viva!! クラリネット

久野絵美

先月 10 月 8 日私の地元武豊町、武豊町民会館ゆめたろうプラザ通称『ゆめプラ』にてリスト音楽院の大先輩であるコハーン・イシュトヴァーンさんがクラリネット 2 本、ピアノとのトリオでの演奏でいらっしゃるということで、志村さんをはじめ会員の恩田さん、佐藤さんと、舞台上のお三方の息遣いが間近で感じられる距離で楽しんできました。今回のコンサートは会館の通年事業、サロンコンサートシリーズの 4 公演目として組み込まれたものでした。また前日 7 日には幸田町でコンサートをされて知多半島までいらしたそうです！

「Viva!!クラリネット」というタイトルで、イタリア人クラリネット奏者アレッサンドロ・ベヴェラリさんと楽器の魅力を余すことなく伝えるエネルギッシュな内容でした。前半はバッハのヴァイオリンの名曲「2 つのヴァイオリン協奏曲 BWV1043」のクラリネット編曲で始まり、全身から発する躍動的なバロックのビートに驚かされました。続いてお二人のソロ、コハーンさんのプーランクのソナタにうっとりと聴き入ってしまいました。後半は現代的な音楽が続き、コハーンさん作曲の「ファイドマン風演奏用小品」では自身の作曲であることを MC として遠慮がちにおっしゃいましたが、客席を惹きつけるとても素晴らしい曲でした。最後は熱気あふれるピアソラの音楽で、もっと聴いていたいという気持ちになりました。アンコールでも自作曲（！）を演奏されると、会場中が一体化するような拍手がわきおこり、とても暖かい気分になった瞬間でした。

コハーンさん曰く「この 3 人だからできる音楽、やりたい事ができている」と公私とも信頼し合う関係であるメンバーとの達成感や今回の公演にかけた熱い想いについて、満面の笑顔と共に語る姿を見ることができました。終演後お忙しい中、久しぶりの対面に気さくにお話くださったコハーンさん、ありがとうございました！　武豊の思い出にとお渡しした溜・味噌、東京でも楽しんでいただけていると嬉しいです。

ちなみに自作曲で登場した「ファイドマン」とはアルゼンチン出身イスラエル人のクラリネット奏者、作曲家ジオラ・ファイドマン氏のことだと思われます。彼はスピルバーグ映画「シンドラーのリスト」の劇中音楽のクラリネットソロを担当したことでも有名です。

祖父の代から続く音楽家一家で、ユダヤの伝統行事や婚礼で奏される音楽「クレズメル」を伝承しながら、クラシックやタンゴ、クレズメル奏者として今なお活躍する音楽家です。クレズメルの音楽もジプシー音楽と良く似た即興的で装飾豊かな心を揺さぶられるような音楽です。コハーンさんの自作曲や民族曲をお聴きいただき異国に想いを寄せてみてはいかがでしょうか。

こんにちわーるどフェスティバル参加

久野絵美

先日 11 月 20 日（日）半田市福祉文化会館にて半田市国際交流会主催のイベント「こんにちわーるどフェスティバル　世界の人たちとあそぼう！」にハンガリー代表として参加させていただきました。20 年近く続いているイベントですが、ハンガリーは珍しいとのことで去年よりブースでの展示と、Emi＆Alpakka としてピアノとアコーディオンのクラシック演奏を行っています。今回は Rózsavölgyi Márk 作曲の Lakodalmas、ハイドンのピアノトリオよりジプシーロンド、リストのハンガリー狂詩曲第 2 番を演奏しました。

このイベントの特徴は、お子さんから大人まで来場者は各国（11 ケ国）のブースを回り、その国の「こんにちは」と「元気ですか？」を言ってシールを集めるというゲームに参加できることです。ですからハンガリー語で「Jó napot」と「Hogy van?」と来場した方々と終始あいさつし続けなければいけない、というとても楽しいですが忙しい（！）イベントです！

このような交流の中で、ハンガリーに旅行に行かれた事のある人と話に花が咲いたり、歴史や民族についての話、ハンガリー語の難しさなどにふれたり、大好きなハンガリーについて話すことが出来てとても嬉しかったです。

また他の外国の方とも話すきっかけもでき、ハンガリーから遠いペルーやエキゾチックなあこがれもある（？）アジア諸国の民族舞踊や民芸品なども見ることができ、とても楽しい時間となりました。ヨーロッパの国々の参加はありませんが、交流を続けることでハンガリー人や近隣国の方とも知り合える機会につながると良いなと思っています。

ハンガリー便り

大塚奈美さんのご主人ラーザール・アティッラさんの店「ナトゥール・ビュフェー」が 10 月 30 日の読売新聞に「異郷のグルメ　ハンガリー」として紹介されました。

「名鉄瀬戸線の尾張瀬戸駅から徒歩圏内の「せと末広町商店街」の一角。昭和レトロなアーケード街を進むと、白地に花をあしらった看板を掲げる飲食店「ナトゥール・ビュフェー」が視界に入った。メニュー表はなく、ランチ、ディナーともにメイン食材が異なる３種類のセット料理が基本。スープやデザートをオプションとして付けることが出来る。白を基調とした清潔感のある店内で、オーナーシェフのラーザール・アティッラさん（５３）が、腕によりをかけて作った東欧料理を楽しんだ。」

続きは下記をご覧ください.

https://www.yomiuri.co.jp/local/chubu/feature/CO056192/20221029-OYTAT50021/

ナトゥール・ビュフェー
住所：愛知県瀬戸市末広町３の７せと末広町商店街内
電話：０５０・５３７２・８７１０
定休日：月、火曜日
※新型コロナウイルスの感染状況などによって営業日が変更されることもある。

2022 年秋号をお届けします。感染症の状況にはまだまだ油断ならないものがありますが、さまざまな文化的行事は開催されるようになってきました。久しぶりに行われた小牧市民まつり，ハンガリー音楽の催しなどについて会員のみなさまにご報告いただきました。ハンガリーワインを片手にハンガリーの音楽を楽しんでみてはいかがでしょうか。時節柄、お風邪などめされませんようくれぐれもお気をつけください。会員のみなさまのご健勝を心よりお祈りもうしあげます。
　みなさまからのご意見や情報、記事などをお待ちしています。

愛知県ハンガリー友好協会
E-mail: ambt@hotmail.co.jp
http: //aicsimagyar.sakura.ne.jp/wp/